2015（平成27)年 12月 1 日　第 40号

発行：（福）十字の園法人事務局
理事長　平 井　　章
住所：〒431-1304
静岡県浜松市北区細江町中川 7220-11
tel 053-414-1400
fax 053-420-2100

社会福祉法人　十字の園

ぶどうの木

（ヨハネ福音書 15章）

2015 年　第 2 アドナイ館　敬老祝会　鈴木唯男様（103 歳）

『心のよりどころ』

ケアハウス　第 2 アドナイ館　施設長　**鈴木淳司**

この題を頂き、全ては聖書にあると思っている私にとっては、聖書の言葉がやはりそれに当たります。また、仕事と結びついたものでは、鈴木唯男著『愛は忍び耐える』が有ります。この中で「先を見通して積極的に進めて行くというよりも、与えられた仕事の中で教えられながら、求められる事に積極的に応答して行こうと努力するという進め方で仕事に関わってきた。」と仕事への姿勢を語っておられます。いかに、与えられた中で生かされるのか。そこには、共に歩む方々と耐え忍ぶ姿が描かれています。聖書の言葉を体現されるその姿は変わらず第 2 アドナイ館で現されています。自らの想いから離れた歩みは、忍従の歩みであり、そこに愛があると日々教えられています。

「わたしたちは神に造られたものであり、善い業のために造られたのです。」
（エフェソの信徒への手紙２章10節）

４０年の歩みの中から見い出せたこと

理事長　平井　章

１　わたしたちは神に造られたものであり

御殿場十字の園に就職して４０年。思い返しますと、多くの人や多くの事に出会い、たくさんの宝物をいただきました。その中で最高の宝物は、神様に出会えたことです。

就職して１週間後に長女が誕生しました。福祉の道、クリスチャンの道を歩み始めた２年半後に知的障がいのある次女が生まれました。自分の子を障がい者と受け入れるには時間がかかります。「何故」と問いながらの苦悩の時が経過して、この子も神の作品で、私たち家族への神からの贈り物と思うことができました。一人ひとりが尊い命です。人それぞれの価値があり、意味があります。

２　みんなちがって、みんないい

神の作品は一人として同じ人はいません。生まれる時も場所も、生命の長さも、持っている賜物もみんな違います。世界中では年間に１億３千万人が生まれ、６千万人が亡くなります。世界の人口は現在７３億人です。

「私と小鳥と鈴と」
詩：金子みすゞ

私が両手をひろげても
お空はちっとも飛べないが
飛べる小鳥は私のように
地面を速くは走れない
私がからだをゆすっても
きれいな音は出ないけど
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ
鈴と　小鳥と　それから私
みんなちがって　みんないい

３　本物には愛が、みんな一緒

２０１４年に、黒柳徹子さんの『絵本・窓ぎわのトットちゃん』と『本物には愛が』が刊行されました。トットちゃんは、“変わった子”で、小学１年生で退学し転校することになりました。新しい学校には数人障がいのある子もいました。席順もなく時間割もない、みんなが友達になります。

トットちゃんが先生にある日言われた「君は、本当は、いい子なんだよ」の言葉は黒柳徹子さんが大人になっても支えました。「みんなちがう」けれど「みんな一緒」なのですね。

４　最高の宝物は神と出会えたこと

就職して間もなく、クリスチャンで目の不自由な遠藤よしさん（入居者）と出会いました。自分に「何かできることはないか」と始めたのが聖書の朗読テープ作りです。カセットテープの表面裏面に、マタイ福音書から始めて、マルコ、ルカ、ヨハネ、使徒言行録を、一日１章づつ吹き込み、１１７章５９巻のテープが完成しました。聖書を声に出して何度も読むことによって霊的な力を受け、その年のクリスマスに長女０歳（幼児洗礼）、私が２８歳、同僚職員２人、入居者西島ヱチさん９６歳と一緒に洗礼を受けました。

施設の礼拝でみことばを聞き、教会の礼拝で霊的に養われ、良き先輩に出会い、仕事の上でも、生活の上でも恵まれた４０年を実感しています。

５　善い業を行って歩むのです

私にとって神様と出会ったということは、「神の救い」「神の愛」「神の臨在」を実感したことです。順風満帆の４０年間ではありませんが、耐えられない試練はありませんでした。毎朝礼拝で一日が始まるという伝統は大切なことです。私も高齢者と言われる歳になりました。肉体の衰えを感じつつ、神様のため、十字の園のために、私のできる善い業を心掛けていきます。

「夢と希望にチャレンジする高齢者コミュニティを目指して」

十字の園評議員（日本老人福祉財団 理事長）　青木雅人

私が勤務する日本老人福祉財団は、42年前、福祉元年と言われた1973年12月に設立認可されました。

高齢者割合が総人口の僅か7％の時代、聖隷福祉事業団長谷川保、有料老人ホームのシステムを構想した設計会社代表岩田誠一、通産省出身で起業家山本陽一らの先達が、新たな老人福祉のモデルを提案しました。

それは、「健康な時に入居して最期まで安心できる継続的ケア」「プライバシーを保ち豊かな生活を満喫できる生活環境」「相互扶助に基づく入居金システム」など、今日の終身介護付き有料老人ホームの雛形でした。

当財団では、1976年の第1号施設浜松〈ゆうゆうの里〉を始め、これまで全国に7カ所の有料老人ホームを設置運営しています。

超高齢社会を迎えた今日、有料老人ホームは約1万カ所まで増加しましたが、多くは介護が必要になってから入居する施設です。健康な時に入居し人生を満喫したいというニーズは、十分には満たされていません。

私たちは「健康作りと生きがい作り」「仲間や地域社会との交流」「介護・医療等の一体的で切れ目のないサポート」、これら当初の志を基盤にして、夢と希望にチャレンジする、自分らしい暮らし方ができる元気付高齢者コミュニティを社会へ提案し続けて行きたいと考えています。

これからも、十字の園を始め高齢者福祉の先駆者の皆様と連携しながら、福祉社会の実現に向けその一翼を担うべく邁進する所存です。

「マイナンバー制度に向けて」

法人事務局　金原　忍

2015年10月より皆様のお手元にマイナンバーの通知がやってきます。何の為のマイナンバー？と思われる方がほとんどだと思います。それは、社会保障・税金・災害対策の行政手続きを、マイナンバーと結びつけることで行政事務を効率化させて、皆様の手続きの手間を簡素化させる為という事だそうです。こう書いているとそれほど大騒ぎするような制度ではないと思われますが、事業所にとっては一大事です。マイナンバーは法律で保護された重要な個人情報です。事業所は職員とそのご家族からマイナンバーを集め、厳重に保管し、社会保険等の加入や年末調整の手続きの為に利用し、使わなくなったら破棄していくのですが、個人情報保護法よりも厳しい法律でしっかり守られています。ルール違反をしたり、マイナンバーの情報が流出してしまったら処罰されてしまいます。それだけこの制度は便利になる反面、正しく取り扱わないと非常に危険なものという事になります。

なかなか厳しいマイナンバー制度ではありますが、十字の園は「あおば社会保険労務士法人事務所」、「介護福祉系法律事務所おかげさま」の強力なバックアップを受けながら、取扱いのルール（規定）をなんとか完成させて、各施設に配布することが出来ました。現在は、取扱いマニュアルの作成に取り掛かっているところです。本格的にマイナンバー制度が動き始めるのは2016年の1月からですが、職員や利用者の皆様方が不安にならない様に法人全体で一丸となって取り組んでまいります。

「２０１５年度　十字の園大会　開催」(担当　浜松地区)

主　題『創立の精神(こころ)から新たな福祉に挑戦(チャレンジ)～既に据えられている土台の上に～』
テーマ『地域の皆様と共に歩む私たち』

１０月２２日（木）、２３日（金）の２日間に渡り、「第２０回十字の園大会」を浜松地区が主催して「地域の皆様と共に歩む私たち」をテーマに開催されました。遠州栄光教会伝道師盛合先生の礼拝により始められ、続く理事長挨拶では、「理念の継承～既に据えられている土台に理念がある事をもう一度確認しよう～」と題して話されました。エフェソの信徒への手紙２章１０節を読まれ、神様に作られた私たちという思いの大切さと、金子みすゞさんの詩“私と小鳥と鈴と”からみんなちがってみんないいという言葉と、黒柳徹子さんの“窓際のトットちゃん”（絵本）の中の校長先生の言葉、“みんな一緒”という言葉を用いて、神様に作られた私たちは、それぞれの違いを認めながら、みんなが一緒にいる事が大切なんだという思いを大切にしていってほしいと語られました。

基調講演は、社会福祉法人牧ノ原やまばと学園長澤道子理事長をお迎えし『「あなたに出会ってよかった」と言われる職員に』と題して講演していただきました。職員と一緒に入居する子供たちのお世話について、一つひとつ作ってきた福祉は人が大切で、人と人との出会いの中で、それぞれの関係性を作り、その雰囲気から親しみや離れがたい思いが生れ、ここにいて良かった、あなたに会えて良かったと思ってもらえる施設が作られていった、そうした障害を持ったこどもたちとの歩みは、ブラザー・アンドリュー氏が来られた時に“あなたがたは日本の福祉に対する愛のプレゼントです”とおっしゃられた言葉に表されています。

課題講演は、聖隷クリストファー大学坂本道子教授をお招きし、『「ディアコニア」に基づく実践－ディアコニッセ・ハニの働きから学ぶ－』と題して講演して頂きました。十字の園の原点であるディアコニッセの働きを分かりやすく話してくだされ、その中でハニ姉妹が大切にされてこられた事、また、ディアコニッセの働きが、社会の必要に応じて一人の方から、社会、世界へと広がって行った事、その中に十字の園の働きもある事を話してくださいました。

２日目は、各施設より、テーマに沿った内容でそれぞれの地域との繋がりや、大切な方を通じてつながる地域の姿や、職員の気づきについて発表がされました。

第2アドナイ館　施設長　鈴木淳司

基調講演

演題：「あなたに出会ってよかった」と言われる職員に

講師：牧ノ原やまばと学園理事長　長澤道子氏

介護保険制度実施以降福祉は大きく変わり、介護が身近な存在になりました。一方で福祉がビジネスとなり、営利が当然となっている事が懸念されます。日本の福祉は、海外の方に助けられてきました。彼らの姿勢には、弱い人々への熱い想いと命に対する畏敬の念と、どんな人も神様が作られたとする人への深い想いが有りました。

やまばと学園の建設は、榛原教会牧師であった長澤巌（道子様の夫）氏が中心的役割を担いました。彼には重い知的障がいをもつ姉がおり、牧師になっても言葉で愛を語るだけでは無く行動して人の力になりたいと思っていました。やがて手をつなぐ親の会（障がい児の親の会）会長となって活動する中で、障がい児のための施設が必要となったのです。

そうして開設された施設で暮らしていた軽度の知的障がいを持つ一郎君は２，３年で家に帰りましたが、海水浴に来た時に学園を思い出し、お兄さんが連れて来てくれました。職員との再会を喜び、懐かしそうに学園の柱を触り頬ずりをしていました。ここに住んで本当に良かったと彼の心に残り、あなたに会えて良かったと思ってもらえたのだと思いました。職員も同じように感じたのではないでしょうか。心の繋がりを大切にし、弱っている人を力づける事が福祉の大きな使命です。

長澤巌氏が残した言葉があります。「目に見える働きがどこに向かうかは神に任せなくてはなりませんが、全力を挙げて取り組まなくてはならない勤めは、一番の根底となるべき愛の流れを友たちと心をあわせて強めていく事だと思わされています」

また、マザー・テレサと共に働かれたブラザー・アンドリュー氏は「あなた方は、本当に日本の社会に対する愛のプレゼントなのです」「競争が激しく疲れ果てている人が多い中で、この学園は助け合い、思いやりが溢れているのです。これを大事にしてください。とても尊く、人々が来て癒される、そういう営みを続けて下さい」と言って下さいました。やまばと学園に来ると癒される、笑える、励まされる、そういう施設になっていきたいと私は願っています。

課題講演

「ディアコニア」に基づく実践　ーディアコニッセ・ハニの働きから学ぶー

講師：聖隷クリストファー大学社会福祉学部教授　坂本道子氏

牧師をしている父の影響で、人に役立つ活動をしたいと思っていました。かにた婦人の村という婦人保護長期入所施設での実習時、初めてディアコニッセの姉妹にお会いしとても興味を持ちました。翌年浜松十字の園でも実習をしましたが、そこで忘れられない出来事が有りました。ある入居者が食事介助の際、吐き出されてしまい食べて頂けず、拒否をされてしまったのです。私は良かれと思ってしたことでしたが。その時「ディアコニッセって何？」と疑問に思い、現在の課題となりました。今日はその答えを探しつつ、皆様と原点に戻り、ディアコニッセの働きを考えたいと思います。

ディアコニアを「キリスト教的愛から発して、人間の困窮に実践的奉仕の行為をなすこと」と定義し、福祉を支える根底思想に位置づけました。「奉仕・給仕」といった意味ですが、「世話をする・もてなす」が一番日本的な訳語でしょう。戦後長谷川保氏の派遣要請によって浜松に来た５人のディアコニッセのうち、ハニ姉妹だけが残られて共同生活をされました。

ハニ姉妹には自由な発想と創造力が有り、困っている事に対して５つの考えで取り組みました。①いつでも言ってください②お手伝いしましょう③言う事は言います④私の仕事です⑤あなたと一緒に居ます、というところからハニ姉妹の独創的な姿勢が伺えます。

ディアコニッセの働きは、身近な方々の問題を援助する働き、より広域的に地域で相談やニーズを聞き取る支援や働き、そして海外にも目を向けた働きと広がりを持っています。十字の園も同様に個々の支援から地域のニーズに応え、広がっていきました。

福祉を目指すきっかけを学生に聞いてみると、施設にいた祖父母がお世話になった職員の姿、介護体験や実習の時に一人ひとりを大切にする職員の姿を見て、という答えでした。皆さんの働く姿勢が伝わっているのです。ハニ姉妹が伝えていた姿勢が引き継がれているのです。それは福祉の根底にあるディアコニアであり、皆さんの素晴らしい仕事を通して今後も受け継いでいっていただきたいと思います。

「第20回十字の園大会」プログラム

大会日程

第１日目【10月22日(木)】	
13:00	開会礼拝
13:20	開会挨拶
13:30	理事長挨拶
14:00	基調講演（長澤道子氏）
15:15	課題講演（坂本道子氏）
17:00	浜松十字の園建築計画説明
17:30	終了
18:30	夕食交流会

第２日目【10月23日(金)】	
8:30	施設発表　御殿場十字の園
	施設発表　平和の杜
	施設発表　松崎十字の園
	施設発表　伊豆高原十字の園
	施設発表　浜松十字の園
	施設発表　アドナイ館
	施設発表　第２アドナイ館
11:30	閉会礼拝
11:50	閉会挨拶

施設発表

施設名	発表者	テーマ
御殿場十字の園	山田　汐見	笑顔の絶えない「グループホーム笑みの里」　1年半の振り返り、そしてこれから・・・
平和の杜	佐久間・高島	ご利用者様が架けた繋がりの橋
松崎十字の園	藤井　昭一	障がい者相談支援事業所オリブの取り組み
伊豆高原十字の園	星野　千秋	看取り介護の受容・心の支えは地域の力
浜松十字の園	槇林　直明	Aさんの帰省を通じて気づいたこと。私たちができること
アドナイ館	岩﨑　誠	細江デイサービスセンターにおける地域との関わりについて
第２アドナイ館	犬塚　直子	地域と共に生きる

【ゆかた美人が勢揃い】

伊東市立養護老人ホーム　平和の杜　山田敬紀

今夏は、２年ぶりに『納涼祭』が開催されました。午前中、大粒の雨が降り心配しましたが、「晴れ女・晴れ男」のおかげで晴天の下で夏祭りを楽しむことができました。

夏祭りと聞いて「浴衣」を思い出さずにはいられない方もいるかとおもいますが、普段は裏方としてイベントを支える施設職員も、納涼祭では浴衣を着て夏祭りを盛り上げます。普段と違う装いに入居者も職員も自然に笑顔になり、あらためて「整容」の意味を考えさせられました。

恒例となった職員によるオープニングパフォーマンスでは、ＡＫＢ４８の「フォーチュンクッキー」が披露され、大きな拍手と共にお祭りがスタートしました。この日のために密かに練習を重ねた職員も多く完璧に踊り切っていました。

もちろん夏祭りと聞いて「屋台」を連想する入居者も多く、特に普段は食事制限がある入居者は、職員が心配するほどお腹いっぱい好きなものを召し上がりました。幸い翌日に体調を崩す入居者もなく、入居者家族、施設関係者、ボランティアを含めて約１３０名が参加する「夏祭り」を無事に開催することができました。

【車いすで海へ】

松崎十字の園　オリブ　渡邉治郎

ワゴン R のハッチバックを開けると潮の香りが車内に入り込んできた。今日はいつもと違うことが起こりそうだぞと利用者の目がらんらんと光り出す。空はどこまでも青く、海は果てしない水平線を見せ、地球が丸いことを我々にあらためて教えてくれていた。そう、今日は近くて遠い松崎海岸に我々は来たのだ。というのも、隣町である西伊豆町の NPO 法人“みんなの家”さんが体の不自由な人でも砂浜や波打ち際まで移動できる水陸両用車椅子の試乗体験に「オリブもどうですか？」と誘ってくれたのだ。オリブは一も二もなく参加を表明し、男性利用者１名、女性利用者２名で順繰りに水陸両用車椅子に試乗すべく駆けつけたのである。

松崎十字の園は海にとても近い。歩いて５分もすれば海岸に行きつける。しかしながら、海の醍醐味を味わえる機会は乏しい。身体障がい者にとってはなおさらだ。そんな私たちに海を感じさせてくれる機会がきたのだ。潮を含む風を頬に受け、波打ち際をバシャバシャと疾駆し、バケーションを楽しむ行楽客の歓声を耳にし、ズボンの裾を海水で濡らしたのであった。「小学生以来だよ、海に入ったのは・・。とても気持ちがいい。」と利用者の K さんは素直に喜びを表現してくれていた。A くんも間近に水着ギャルを見ることができ目が普段の２倍になっていたし、Y さんも反射する水面の陽光に感嘆の声を発していた。いつもと違う体験をし、少しでも生きる喜びを感じられることができたのなら幸いである。聞けばこの車椅子海にも浮くそうである。来年は職員も水着で参加し、一緒に海水に濡れ、生きる喜びを感じたい。

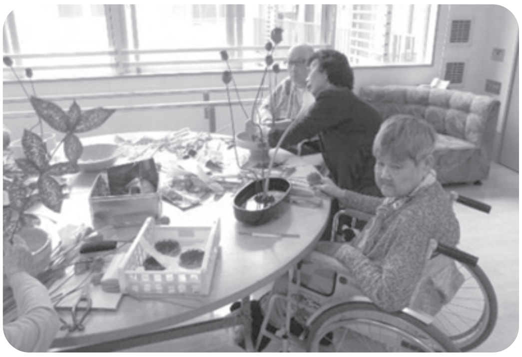
【ボランティアコーディネート】

伊豆高原十字の園　生活相談室　磯崎 亮

当施設では様々な活動内容のボランティアの方々に来ていただいています。「傾聴ボランティア」、「喫茶」「ガーデニング」、「歌おう会」、「読み聞かせ」、「縫製」「生け花」、等々、多くの方々に活動を通し、御協力いただいています。「ボランティア」は、組織の形態であったり、個人活動であったり、現状に合わせた様々な形態、働き方を持ち合わせています。個人参加、グループ参加、毎日のように来ていただき、掛け持ちのボランティア活動をされる方から数年に一度来られる方など参加スタイルも様々です。各ボランティアの方々の想いを尊重するコーディネートを心がけたいと思います。

読み聞かせ

ガーデニングサークル



生け花

日本全国食べあるきの旅　～くろっちょ旅行記～

御殿場十字の園　地域活動支援センターくろっちょ　武藤繁生

２０１２年１２月「出掛けるだけが旅ではなく五感に新しい刺激や感動を得る『知』の視野を広げる事もやはり『旅』・日本全国の郷土料理を自分たちで作って食べ歩こう。」をコンセプトに、私達は『おいしい旅』に出かけ、現在までに 34 都道府県を旅しました。

山形県の芋煮に始まり、B 級グルメでグランプリを獲った青森県せんべい汁を堪能し、愛知県では定番のきしめんをすすり、沖縄のタコライスを頬張り、長崎では皿うどんを食べ、箸休めに取り寄せた長崎かすてぃらに舌鼓を打ちました。

今まで「料理をしたことがない」「何も出来ない」と自信を失っていた方々が、回数を重ねる度に「私にも出来ることがある」と自信を持ってくださり、「今日は何を切るの？」「あとは何をすれば良い？」と積極的に参加してくれるようになりました。

料理は食べるだけではなく、調理という過程を楽しむことで更なる美味しさ・感動が生まれてくると思います。「おいしい」「たのしい」「うれしい」に説明はいりません。味わってみれば判ります。美味しい料理に人は集まる。人の数だけ笑顔があふれる。たくさんの料理と多くの感動に出会うため旅はまだ続きます。

「テレビ会議展望」

法人事務局　柳川　幸

現在十字の園ではv-cubeミーティングというシステムを用い、インターネット回線を使用したテレビ会議を導入しています。いままでは静岡県の西部と東部に施設が離れているため、移動するだけでも時間と労力、そして経費を要していました。しかしこのシステムの導入によりウェブカメラとマイクを通して、他施設の職員との会議や打ち合わせがリアルタイムで出来るようになりました。電話とは違い対面しながら複数での同時会話が可能であり、画像や文章を資料画面として映すことで、情報の共有・伝達もスムーズに行えます。

回線状態などの不安定要素もありますが、今後は会議だけにとどまらず、研修や講演会、礼拝等を施設を超えて共有するなど様々な活用方法が期待されます。

2015 平成27年度 永年勤続者表彰名簿（31名）

おめでとうございます。これからも元気で良い働きができますように！

勤続年数	氏名	施設名	就職年月日	勤続年数	氏名	施設名	就職年月日
35年	上野貢一	アドナイ館	昭和55年4月1日	10年	鈴木卓	御殿場十字の園	平成16年2月1日
25年	井部里美	御殿場十字の園	平成2年4月1日	10年	高木直也	御殿場十字の園	平成16年6月1日
20年	杉山亜紀子	御殿場十字の園	平成6年9月1日	10年	芹澤保憲	御殿場十字の園	平成17年1月1日
15年	五明毅	浜松十字の園	平成11年1月1日	10年	山田大輔	御殿場十字の園	平成17年4月1日
15年	山村葉子	浜松十字の園	平成12年4月1日	10年	渡邊秀美	御殿場十字の園	平成17年4月1日
15年	伊澤香	御殿場十字の園	平成12年4月1日	10年	冨岡加代子	伊豆高原十字の園	平成17年3月1日
15年	田中美智代	伊豆高原十字の園	平成11年5月1日	10年	中村小雪	伊豆高原十字の園	平成17年4月1日
15年	土屋康美	伊豆高原十字の園	平成12年1月1日	10年	冨岡良太	伊豆高原十字の園	平成17年4月1日
15年	鈴木淳司	第2アドナイ館	平成12年2月1日	10年	三木義史	アドナイ館	平成16年6月1日
15年	今井優子	第2アドナイ館	平成11年11月1日	10年	影山博美	アドナイ館	平成17年4月1日
15年	里見敏和	伊東市立養護老人ホーム	平成11年11月1日	10年	藤池久美子	松崎十字の園	平成15年4月1日
15年	水口朱美	伊東市立養護老人ホーム	平成11年12月1日	10年	佐藤秀子	松崎十字の園	平成15年4月1日
15年	鹿野勝幸	法人事務局	平成12年4月1日	10年	鈴木敏江	松崎十字の園	平成15年10月1日
10年	藤田絵美	浜松十字の園	平成17年4月1日	10年	後藤久美	伊東市立養護老人ホーム	平成17年4月1日
10年	山中明美	御殿場十字の園	平成15年5月1日	10年	森野美代子	伊東市立養護老人ホーム	平成17年4月1日
10年	岩下史美	御殿場十字の園	平成15年4月1日				

あとがき

１０月下旬、名古屋に住む３歳年上の実兄と温泉旅行に出かけました。兄は10年程前に体調を崩し、職を辞し現在のグループホームで勤め始めました。

前職は、営業職でしたので、私としては近寄りがたいものを感じていましたが、夜な夜な宿で福祉・介護の仕事について生き生きと語る兄の姿を見て、兄弟で同じ土俵で語り合えることが出来る喜びと同時に、光り輝くものを感じました。「夕暮れになっても光がある」とつくづく思いました。

第２アドナイ館：鈴木敬二

復興支援募金継続中　ご協力を!!
皆様の温かい御支援をお待ちしております!!

〒431-1304
静岡県浜松市北区細江町中川7220-11
社会福祉法人　十字の園
理事長　平井　章

銀行振替　静岡銀行細江支店 普通 0015345

（掲載されています写真については、ご本人またはご家族の承諾を頂いています。）